

創立 15 周年記念 歴史文化クラブ特別企画

「越の国と継体大王歴史探訪」

古川 祐司

5月30日、15周年記念行事の最後を飾る研修会は、五月晴れのもと、定刻前に27名全員の顔が揃う。川井代表は無念のご欠席。8時、鈴木会長のご挨拶で越の国歴史探訪の旅がスタートする。

敦賀市へ。継体大王の前半生の講義を聴きながら10時、気比神宮に着く。当地には、記紀に仲哀・神功皇后・応神天皇の記述が残る。祭神イザサワケと応神天皇ホムダワケが名前を取り換えたという易名伝承は、当地が応神天皇系の勢力基盤であったことを暗示し、越前から出た応神五世孫の継体大王につながる。

越前市。「越前そばの里」で見学と昼食。バスは紙祖神「川上御前」を祀る岡太（おかもと）神社へ。江戸時代、越前和紙は天下一の称号を得て越前藩主に手厚く保護された。現社殿は天保14年の造営。本殿と拝殿が連結した独特の社殿には、正面、側面、背面に精巧な彫刻が施され、江戸建築の技の粋を尽くす。豪華にして重厚。今回の旅の思いがけない発見と、参加者の声しきり。

福井市。足羽山（あすわやま）公園は福井城の西南5kmにあり標高116m、全体が4世紀頃の古墳群である。足羽神社は越前平野の治水伝説を伝え、山頂には巨大な継体大王の石像が三国湊を望んで佇立する。

坂井市。江戸時代、三国湊は北前交易の寄港地として栄えた。ボランティア・ガイドの魚谷さんの案内で北前通りを散策する。裏に海を控えた問屋屋敷や花街の跡、華麗な山車、明治初年に豪商が私財を投じた木造5階建の小学校など、郷土の歴史を誇りに、守ってきた人々の心意気を感じる。

休暇村・越前三国は、全室オーシャンビューで夕日が美しい。夕食後の懇親会は、参加者の総出

演「全員集合！越の国と継体大王トーク・ショーだよ」は青木さんの名司会で大いに盛り上がる。

第2日目、快晴、全員疲れも見せず8時出発。継体の母、振姫の里「高向神社」から、六呂瀬山（ろくろせやま）古墳群へ。ここで坂東さん、満を持しての登場。

九頭竜川溪谷の両岸には7代の越前平野の盟主の古墳、二本松山古墳出土の王冠は伽耶の様式、継体大王に関連する古墳の前方部は剣菱型とか、蘊蓄（うんちく）を披露して話は尽きない。



越前随一の名刹永平寺は、自由拝観。昼食の精進料理を頂いた後、バスは一路、近江・高島市へ。

車中講義第3弾は、羽尻さんによる「鎌倉仏教と道元の思想」。ついウトウトすると、体中に響く警策（けいさく）の音！・・・座禅体験談に目を覚ます。

講義第4弾は、中井さんによる「継体大王と鉄」。弥生以降、稲作が浸透する時代は「鉄こそ力」であり、有力豪族の連合を果たした継体大王の背景は、製鉄技術を持つ渡来人集団に負うところが大きかったとの説明。なかなか説得力がありました。

最後は男大迹（おほど）王の生誕地高島市へ。民俗歴史博物館では鴨稻荷山古墳出土の大刀、冠、馬具の豪華なレプリカを前に学芸員白川さんの解説、我々の疑問にも明快に答えて下さる。

番外の田中王塚古墳（男大迹王の父、彦主人王〈ひこうしおう〉の墓か）の現地案内をしていただき一同大感激。歴史ロマンの旅の素晴らしい締め括りとなりました。

皆様お疲れ様でした。